

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年3月13日

報告者	学科名	保健福祉学部看護学科	職名	助教	氏名	高林範子
研究課題	身体性アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システム					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	高林範子	保健福祉学部看護学科 助教	基礎看護学	統括・実施	
	分担者	渡辺富夫	情報工学部情報システム工学科 教授	ヒューマンインタフェース	システム開発	
		石井 裕	情報工学部情報システム工学科 准教授	ヒューマンインタフェース	システム開発	
研究実績の概要	<p>1. はじめに</p> <p>看護の方向性として看護実践力の向上が求められており、看護者がどのように考え、判断しているかといった考える力を涵養するような教育が重要である。「反省」「振り返り」「省察」とも訳されるリフレクション (reflection) は、そのような看護実践の基盤となる科学的問題解決志向を含む思考の仕方であり、看護者が直面する複雑で多様な問題に対応する力となることで、看護基礎教育にもその導入が試みられている。そこで、看護コミュニケーションにおけるリフレクションに着目し、リフレクション機能を付加したシステムを開発している。開発したシステムを用いた評価実験を行い、自己のコミュニケーション課題の明確化や自己の振る舞いの意識化などのシステムの有効性が示された。リフレクション機能として、視線・表情・視点切り替え機能を組み入れているが、さらなる学習効果を高めるために、視線および心拍の変化を測定し、その結果をリフレクションできる機能を増設した。コミュニケーション時の自己の視線変化および緊張状態を意識化でき、自己の状況を客観視することでコミュニケーションスキルの向上に繋げることができると考える。</p> <p>本研究の目的は、開発してきた身体性アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システムのリフレクション機能の向上とシステムの有効性を検証することである。</p> <p>2. 方法</p> <p>開発システムを用いた評価実験を行い、視線および心拍計測結果のリフレクションの効果を検証した。実験参加者は、看護実習生役として4年制大学看護学科の学生24名、患者役は模擬患者（患者役を演じる専門家）1名であった。実験方法は、シナリオに基づき役割を演じながら、お互いのアバタを介し4分間のロールプレイングを行った。ロールプレイング時の看護実習生役の視線の変化と心拍変動を計測し、その計測結果と4分間の看護実習生役の自己映像を提示し、リフレクションさせた。データ収集方法は、視線変化の計測ではアイマーク解析ソフトウェア(EMR-dStream2)、心拍変動の計測には、加速度脈波計 (TAS9 VIEW) を使用した。看護学生へのアンケート調査は、ロールプレイング終了直後(A)と自己の映像をリフレクションした後(B)の2回、次の内容について実施した。①システムに関する7段階評価、②自由記述として開発システムを介したコミュニケーションに関する気づきや感想を記述させた。</p>					

※ 次ページに続く

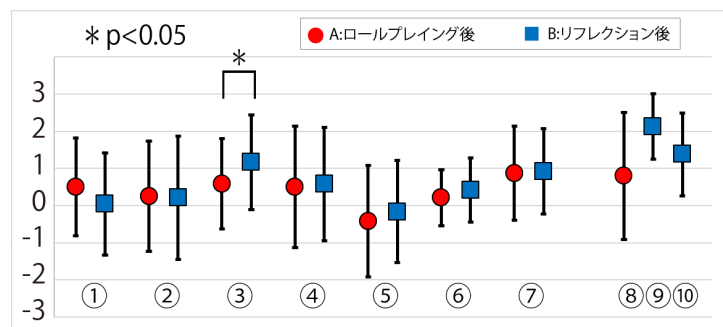
研究実績
の概要

3. 倫理的配慮

岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施した。研究の趣旨、匿名性の保証、研究への協力は成績評価とは無関係であることを口頭および文書で説明し、同意書へ署名を得た。

4. 結果および考察

システムに関する7段階評価の結果を図に示す。Wilcoxon 符号順位検定を行った結果、「コミュニケーションに対する課題を明確にできたか」の項目において有意水準5%で有意差が認められ、リフレクション後が高く評価された。自己の視線・緊張状態のリフレクション機能についての7段階評価では、特に視線のリフレクションが高く評価された。視線のリフレクションに関する自由記述では「自分の視線は患者の目元だと思っていたが肩の近くを見ていることが分かって驚いた」「表情をしっかりと見ていないことが多いことを視線を見て気付いた」など新たな気づきを得た評価も見られた。これらのことから、普段意識し辛い自己の言動や生体反応のリフレクションを行うことで無意識下も含めた自己のコミュニケーション課題を明確にすることができ、自己の状況を客観視することでコミュニケーションスキルの向上に繋げることができると考えられる。



- ①患者の思いを聴き出すことが出来たか
- ②患者の様子を観察することが出来たか
- ③コミュニケーションに対する課題を明確にできたか
- ④自己のふるまいを意識できたか
- ⑤患者との一体感を感じることが出来たか
- ⑥好み
- ⑦今後、このシステムを使用したいか
- ⑧緊張していたか(Aのみ)
- ⑨視線の変化を意識することはスキルの向上に役立つ(Bのみ)
- ⑩緊張状態を意識することはスキルの向上に役立つ(Bのみ)

図：7段階評価結果